

消防トピックス

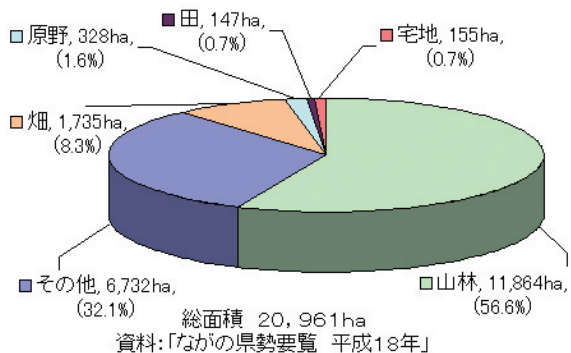
— セーフティ・ファーストエイド研修を実施して —

長野県川上村消防団

1 川上村について

長野県の東南端に位置する川上村は、信濃川に至る千曲川源流の里。四方を山々が連なり秩父多摩甲斐国立公園の一角を占める風光明媚な環境にあります。村の基幹産業は野菜産業であり、7月下旬から11月初旬にかけ、豊潤な大地と豊かな水に生まれ、美しいまでの高原野菜たちが、農家の皆さんのもとの生産されています。

人口約4,000人。面積は209.61km²。



2 川上村消防団について

川上村消防団は、1本部、8分団で構成され、条例定数は280名で、平成29年4月1日現在の団員数は264名です。団員の職業は農業従事者が多く、また、地域に消防団が根差しているため、多くの若者が20歳前後で一度は消防団に入団しています。近年は、若者の消防団活動に対する意識がさらに向上し、その結果として、第25回全国消防操法大会小型ポンプの部で準優勝を獲得しました。



川上村藤原忠彦村長（消防基金前理事長）の挨拶

3 訓練実施の経緯

川上村村長の藤原忠彦が消防基金の理事長を務めていたことから、平成28年7月に消防基金の役職員5名が川上村を訪問されました。



南部消防署救急救命士による初期評価の解説

その際、御巢鷹山の飛行機墜落事故に伴う消防団員の災害活動の話になり、災害現場での消防団員の活動において、自らの安全を確保した上で災害対応ができるようにするための研修を実施することはできないかと村長が申しあげたところ、さっそく消防基金でセーフティ・ファーストエイド研修を組み立てられたとのことで、今回の開催となりました。



呼吸の評価

4 研修の概要

平成29年11月15日(水)に川上村文化センターにおいて、DMAT、DPAT事務局の協力のもと河寫讓先生、小森健史先生、向井亮裕先生、加藤渚先生、佐久医療センター救急課副部長田中啓司先生、佐久広域連合消防本部南部消防署の救急救命士3名によるセーフティ・ファーストエイド研修が行われ、消防団員67名が受講しました。

研修会当日は、ファーストエイド研修とPFA(心理的応急処置)研修を文化センター内の2会場に分けて実施しました。



脈の評価

ファーストエイド研修では、はじめに血液曝露による感染を防止するための手袋装着方法やエマージェンシーバンテージを使用した圧迫止血の方法を学びました。

初期評価においては、意識をみて、呼吸をみて、脈をみて、血を止めるという一連の流れを適切に行うことが重要であり、救急隊が到着するまでの間、消防団員が負傷者に対して適切な初期評価と応急処置を行うことで、救急隊への迅速な引き継ぎができることを学びました。



血液曝露による感染の防止のための手袋装着

災害現場の活動において、仲間の団員が負傷した際に、負傷した団員の初期評価と応急処置を行い、救急隊が到着したら適切につなぐという流れを想定した実演を行いました。その中で佐久広域連合消防本部南部消防署の救急隊が現場さながらの応急処置を実演され、実演に参加した団員も周りで見学した団員も他の研修では体感したことのないようなリアリティを経験できました。災害現場では



消防団員による災害現場活動の実演

咄嗟の判断で対応しないとイケないですが、こういった訓練を繰り返すことにより、自らの安全を確保した上で、負傷者への適切な対応ができるようになって感じました。

PFA研修では、被災した方への正しい対応として、具体的に教えていただきました。傾聴のロールプレイでは、今までの消防団の研修ではやったことがない内容もあり、最初は戸惑いながらも、研修が進む中で次第に自然な対応ができるようになりました。こういった声掛けひとつとっても、普段からできていないことは災害時にもできないということも実感しました。押しつけがましくないサポートというのは、普段の心がけからできるようになるものだと学びましたので、日頃から実践していきたいと思いました。



せんつう
穿通性異物の固定方法



小森先生による講義



河島先生による総括

5 今後の取組

今回の研修では、初めての試みということで、参加団員からの期待も大きく、いつも以上に真剣に取り組めました。また、佐久広域連合消防本部南部消防署から来ていただいた救急救命士の皆さんとの連携訓練を通して、いざというときに協力し合う関係も築けたと思います。

研修を受けた団員からは、「実践的な訓練だったので、災害時に自分たちが行うべき活動がイメージできた」、「PFA研修を受講してみて、普段から傾聴を心掛けることで、いざというときにも実践できるのだとわかった」等、大変意欲的な感想が寄せられました。

これをきっかけに、今後の訓練の進め方にも活かすことができればと思います。また、今回参加できなかった団員に対しても今回学んだことを普段の訓練の中で共有していくなど、継続した活動につなげていければと思います。そして、機会がありましたらぜひまたセーフティ・ファーストエイド研修を開催したいと思っています。

最後に、研修会開催にあたり、DMAT事務局、DPAT事務局、佐久医療センター、佐久広域連合消防本部南部消防署、消防基金など多くの関係者の方のご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



小森先生の講義を熱心に聞き入る消防団員



藤原村長、山崎常務理事を囲んで研修後の集合写真